

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お年寄りを敬う」を第一に、暮らしや環境、地域との触れ合いを大切にしたい理念を全職員が共有し、その実践に向けて 日々取り組んでいる。	今年度企業理念を基に経営理念ができ、事務所内やホールに掲示し、職員や外部の方にわかるようにしている。理念は管理者会議や職員会議などで確認するとともに事あるごとに確認するようにしている。3月に職員の異動があり、理念の実践という面で良い影響がスタッフ間に及んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは、挨拶し気軽に声を掛けあう関係が出来ている。また事業所の行事には、村内の皆さんや近隣の方々の参加等で交流が出来ている。	自治会へ加入し、会費を納めている。地域の一員として地区の清掃活動に参加したり、村民祭へ参加したりしている。また、地区のお田植え祭りや近くの老人保健施設の祭りへも足を運んでいる。ホームに茶道、語り部、ハワイアン、歌、ハーモニカなどのボランティアが来訪し利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年より村の安心見守りネットワークへ登録し村の一員として認知症理解の輪を広げる為の発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の実施で、参加者は村職員、入所者家族全員に声を掛けている。村の役員、警察ボランティア代表などに会議では、事業所の活動状況を報告してその報告は会議録に詳細に記載されている。貴重な意見は全てサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、偶数月に開催している。家族、区長、組長、村職員、駐在署員、民生児童委員、ボランティア、ホーム職員などで構成し、事業報告やスタッフの異動報告などを行い、随時助言もいただいている。利用者家族全員に参加の声掛けをしているが、それぞれの都合もあり難しくなっている。8月には村職員から参加した認知症サポート研修の内容報告があったという。また、年1回、お坊さんをお招きし講話を聴いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密に連絡は取り合っている。	毎月、隣市のケアマネージャー連絡会や連絡会後の研修会に参加し、情報交換やスキルアップに努めている。村のあんしん見守りネットワークにも登録しており、協力体制も出来ている。ホームの空き情報は村だけでなく社会福祉協議会や老人保健施設、訪問看護事業所など、あらゆる方面へ相談し、新規利用に繋げている。介護認定の更新は管理者が自治体から委託を受けて行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間一人対応なので玄関は施錠しているが日中は解放している。常時所在確認、目配りを行い拘束しないケアに心掛けている。職員会議等で話し合い研鑽を重ねている。	家族の了承を得て、転落防止のために柵をしている方や清潔保持のために専用パンツを使用している方が若干名ずついる。朝礼や会議などで随時検討し外すように努めている。身体拘束に関する研修が年6回の法人研修の中の1回として組み込まれており、職員は必ず受講し人権意識を高めている。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の受講を基本として事業所内での職員勉強会、職員会議、カンファレンス等でスキルアップに心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や社内研修を基本として職員会議等で話し合い活用出来る様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、希望される方には施設事前見学や退所される方には外泊を試して頂き良い時期に退所して頂ける様に決める。また在宅時のケアマネージャーや事業所との連携を取っている。入退居時には、管理者が不安、疑問点を尋ね十分な説明をする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意志、要望については、気軽にいつでも話して頂ける様な雰囲気作りに配慮している。	ほぼ三分の一の方が思いを表出することが困難であるため、表情や仕草から読み取るようにしている。他の方は思いを表出することができ、その都度要望があり、職員は意に沿うよう努めている。家族の面会が高齢化や仕事、遠方などの理由により少なくなりつつあるが、面会時には様子などを詳細に伝えるようにしている。8月に家族会、10月に地域交流会を開催し、利用者や職員と交流できるように努めている。またホーム便り「コリウス」を2ヶ月に1回、法人の「ゆりかご新聞」を年5回発行・郵送し、家族とのコミュニケーションを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営等に関する職員からの意見や提案については、随時その機会を設けており、反映の為に努力を継続している。	毎月、全体会議と職員会議を開催し、意見交換やコミュニケーションの場としている。また、申し送りノートなどで意見を収集しやすいよう工夫している。本部の所長との面談が年1回あり、施設長との面談も必要に応じて開かれ、法人の忘新年会では職員間の親睦を深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績、勤務状況等は、良く把握しており、各自が向上を持てるよう、職場環境・条件の整備にも努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成こそが質の高いケアに繋がっていく大切な要素で有と考え、積極的に内部研修と外部研修の計画と参加を推進している。職員は研修受講後伝達を兼ねた勉強会で報告し、全体を職員間で共有している。		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟し地域内・外の同業者主催の勉強会、スポーツなどへの参加で交流する機会も多く、情報交換や知識の研鑽を行い事業所のサービスの向上に役立っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴の積み重ね・・・本人が納得されるまで傾聴する事で、信頼関係を築く事が出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時を初めいつでも声を聴く事が出来る様に気軽な雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時早々に課題整理を行い、暫定の実施表を作成し、短期間でモニタリングを繰り返す中での的確な対応につなげていける様に努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、一緒にテレビを観たり歌を唄ったり昔の話を聞いたり、本人の体調に合わせ軽作業などに一緒に取り組むことで支え合い支えられる関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会に来られる家族と入居者との間に入りどの様な思いでおられるかを伝えたり、日々の生活は2ヶ月毎に作成している新聞作成で配布している。行事も家族で楽しんで頂ける様に案内を出している。家族と共に楽しい思いで作り作成している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の進行度に関わらず、馴染みの場所へドライブに行ったり、馴染みの人との面会を推進しながら関係性が途切れない為の支援をしている。	高齢化などにより知人や友人が来訪することが少なくなっているが、時々自転車で訪ねてこられる方がいたり、年始には年賀状が届く方もいる。利用者の利用年数はまちまちだが、ホームに非常に馴染んでおり昔からいたような感じになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	センター方式等で分析し、共通な趣味や話題を把握して、職員がその繋ぎ役に徹する事で入居者同士の良好な関係が多く築けている。		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多くは看取りまでさせて頂いている関係本人が来られることは無いが 亡くなられても家族との関係は引き続いている 病院などに入院される方には施設職員の気持ちが届く様に1000羽鶴や色紙に職員の思いを書き込んでお届けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中での小さな喧嘩はしっかりと他の職員にも分かるように赤字で記録しプラン作成に役立てている。現在の満足度、希望、意向の把握に努め、毎月行う職員会議に実施表を基に話し合いを行っている。	思いや意向を表出できる方からは入浴や食事などの希望があり、意向に沿えるよう努めている。表出困難な方に対しては生活歴、嗜好、仕草や視線などから意向を汲み取るようにしている。把握した思いや意向はスタッフ間で共有し、話し合いの場で沿えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人に聞く事が出来る時には本人や家族から聞き、センター方式作成で、生活歴全てを把握する様に努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄・入浴・バイタル・食事・水分量等を記入する用紙を作成、一日のリズムや心身状態を把握し、また、日常の観察で能力の変化を確認し、安心して過ごして頂ける様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの意向を十分に把握し、3ヶ月あるいは6ヶ月でケアプランの見直しを必要に応じて行っている。1ヶ月毎にモニタリングを行い状態の変化によって無理のない支援に繋げている。月1回のケアカンファレンスは全員が参加し意見を出し見直しに活かしている。	個別に担当制を取らず、スタッフ全員で9名の利用者を支援している。ケアプランの短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で見直しをしている。モニタリングは毎日のケアプラン実施表のチェックや毎月中旬に開催される職員会議で行っている。また利用者の状態に変化があった場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日がモニタリングという意識を持ち、ケアプランの実践に対する記録や気づきを個人記録に記入しており(ひもときシート)ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が思いを伝えられる雰囲気作りに努力しながら常に柔軟な支援が出来る様に心掛けている。特に自宅への外泊、外出支援など。		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカ演奏のボランティアを週一でお願いして曲に合わせて歌を唄ったりお話を聞いたり楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医がいる旨を説明した上で希望の所を決めて頂いている。往診は月に2回、訪問看護は週3回で24時間オンコール可能となっている。	提携医の往診が月に2回あり、他の病院や医院に受診する際にはスタッフが付き添い、受診前後に家族に連絡、報告している。訪問看護師が週3回来訪し、24時間オンコール可能となっている。必要に応じて法人本部指定の歯科医の往診を受ける体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者の体調変化は直ぐに連絡し来ている。緊急を要しない時には週3回の訪問看護時に報告し健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所時には病院関係者との情報交換を密にし、また退院時にも病院関係者と同様に情報は密にし行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りも状況の変化に合わせて家族の意向を聞きながら家族・医師と話し合っ契約の再確認を行っている。	「重度化した場合における看取りの指針」があり、その都度家族に説明し、意向を確認している。開設以来何度か看取りの経験があり、今年度は2名の看取りを行った。看取りに入る場合は必ず事前に看取りと認知症についての研修を行い、スタッフの意識を高めるとともに心の準備も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し研修も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春・秋の2回行っているが、春は火災想定で総合訓練を消防署の署員に来て頂き指導して頂き、秋は村の災害想定訓練に参加させていただいている。改善点・対応策などの話し合いを継続し行っている。	昨年までは自主訓練を毎月行っていたが、消防署の提案もあり、今年は春と秋2回消防署員立会いの下訓練を行い、夜間想定も訓練も行っている。利用者も参加し、三分の二の方が車いすを使用し避難した。今後、秋の村全体の総合訓練が地区の防災訓練に切り替わる予定とのことでホームもそれに沿い行動していく意向である。介護用品の備蓄やスプリンクラー、自動火災報知機なども完備されている。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者一人一人に対し、常にその意志と尊厳を大切に、優しく敬意の有る対応に配慮している。個人情報の管理も徹底している。	利用者に対しては基本的に名前に「さん」付けで呼んでいる。毎年法人の必須研修としてプライバシー保護に関するものがあり、スタッフの人権意識を高めている。今年度スタッフの異動がありスタッフ間の良い刺激となり、以前に増して利用者のペースや意思を尊重した介護ができるようになってきているという	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あくまでも入居者の意志を尊重して自らが決定や選択が出来る様に話しかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別介護に心懸け、各々のペースで生活して頂ける様に余裕の持てる一日を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ぶことが出来る方には自分の好きな様服を着て頂いている。施設の中で理容師が髪を切っているが希望される方には外の美容院を利用する事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好に配慮し、栄養バランスを考えた献立が本社から送られてくるので参考にしながら畑で収穫した食材を取り入れた献立になっている。もち米が好きな方が多いので季節に合った物を提供し下準備の段階からお手伝いして頂いている。	食事形態は常食・刻み・ペーストで全介助の方が若干名で他の方は自力摂取している。糖尿病の方には量を調節し対応している。献立は法人本部からの献立表を参考にしてアレンジしている。日によって要介護1～2の方が、下ごしらえや食器洗い・片付けをしている。ホームの畑ではアスパラ、かぼちゃ、トマトなどの野菜を作っており、食卓にも並んでいる。誕生日には手作りケーキや寿司等が提供され、外にテーブルを出して昼食会を開くこともある。また2ヶ月に1回は外食の機会があり、回転寿司が好評を得ているという。訪問日は野菜を沢山使用した一汁五菜の、色とりどりのメニューであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や疾患に合わせた栄養バランスや水分量に配慮している。摂取量は詳細に記録している。		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年2回歯科医の協力を得て口腔ケアについての勉強会を開催しケアやりやすい方法等詳細に教えて頂き、介助が必要な方にもまた自力で出来る方にもしっかりと声掛け、見守り等で清潔保持が完全に出ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	あくまでもトイレでの排泄を目指し、入所者一人一人の排泄感覚を把握し声掛け確認している。認知症でトイレが分からない人にはトイレまでの誘導や声掛けの支援をしている。	おむつ使用の方が若干名おり、他の方はリハビリパンツとパット使用となっている。また、夜間、ポータブルトイレを使用している方も若干名いる。排泄チェック表と本人の訴えを基にトイレ誘導し、トイレでの排泄を目指して日夜取り組んでいる。排泄用品に関しては家族や本人の負担も考慮し、極力低コストに抑えるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や 水分の摂取量 食物繊維の有る物を入所者各々の状態に合わせて検討し、便秘予防に取り組んでいる。排泄チェックシートに詳しく記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は入所者の体調や希望に合わせて、週2回を基本に個々に沿った支援をしている。	見守りが必要な方と介助が必要な方がおり、基本的には少なくとも週2回入浴できるようにしている。入浴を拒否される方には時間を置いて声掛けしたりスタッフを替えるなどして、柔軟に対応している。また菰蒲湯やゆず湯など入浴を楽しめる機会も作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の体調などを考慮し、居室で休んで頂く時間を大切にしている。不穏な方には職員が目が届くホールの畳で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用や用法、用量については全職員で学習に取り組んでいる。服薬時は食事が終わった人から直接手渡したり服薬できるまで介助したりしながら間違いのない様に必ず確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族からの情報を基に生活歴から趣味、嗜好までの把握をし畑仕事の好きな方、音楽が好きな方、縫い物が好きな方、調理の好きな方など、それぞれに自分が出る範囲の中で楽しんで参加して頂いている。		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に自然が生み出す彩りを楽しむための外出介助を日常的に機会を多くしている。外食がしたいと希望の有る方には外食支援をしている。	ドライブやバラ公園、お田植え祭りなど、年間行事計画を立て外出している。日常的には散歩や日光浴をし、食材の買い出しなどにも出掛けている。外出以外にも力を入れており、体操・脳トレ・手作りかるた・ランプ・塗り絵などを日常的に行い気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向も加味しながら、本人の力量に応じて可能な方のみ本人が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望によりいつでも電話が出来る様になっている。番号を入力できない方には職員が代わって入力し話して頂き、また、手紙が届いた家族には職員の支援で書いて出せる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりとしたスペースであり車いすでの移動も楽々できる。ホールからは地元の方ならば誰でも知る山が見え、山々は四季折々の様々な物語を語ってくれている。また、キッチンでの食事づくりが見え、良い臭いが漂い五感に十分な刺激を受ける事が出来ている。	外玄関には季節の風物詩である干し柿が吊るされ、建物内に入ると開放感のあるホールと奥には畳の小上がりがある。ホールには日常や行事の写真と利用者・スタッフで作成した「ゆりかご」のボードが飾られている。空調は蓄熱式暖房が3台備え付けられており、温かな室温となっている。浴室は半埋め込み式で広く、利用者の負担を考えシャワーチェアなども使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の場所に座ったり、気の合う人とお話したり、作業に参加できる人には手伝って頂いたりゆったりと生活して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットやベッドが備え付けられているので使い慣れた家具でレイアウトを楽しむ事は出来ないが、家族の写真、神棚、大切なぬいぐるみ等傍に置かれ落ち着いた生活をされている。	ベッドや可動式クローゼット、天井近くにも戸袋が備え付けられており、収納スペースが十分確保されている。また自由に私物を持ち込むことができ、中には遺影が飾られている居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の排除を第一に、その人らしい生活を尊重し「出来る事・分かる事」等、レベルに応じて力を活かしていただいている。残存能力を低下させないための工夫も考え、いつまでも自立した生活を送れる様にお手伝いをさせて頂いている。		